



立志の記念に心を込めて桜を植樹

7日、詫間中学校の2年生105人が立志を迎え、記念に桜を植樹しました。

同校では、ふるさと三豊への愛着を一層深め、冬の自然の厳しさや立春の訪れを体験するため、毎年立志にあわせて紫雲出山へ登山し、桜を植えています。今年は班ごとに合計6本の桜を心を込めて植えました。桜の名所である紫雲出山。立志の記念に自分たちで植えた桜と、ふるさと三豊を大人になっても思い出して、花が咲くころにまた見に来てください。



前号で「浦島デー」の人権集会について紹介しましたが、その日、2年団は立志式を行いました。授業参観となった1時間目は、生徒全員が誓いの言葉を述べました。午後からは、紫雲出山に登り記念植樹をしました。その様子が上のように、三豊市HPの「みとよHOTほっとNEWS」に掲載されています。

テレビ、新聞、HPなど、詫間中学校の活躍が全世界に発信されています。うれしいかぎりです。

オリンピック服装問題に思う

バンクーバー冬季オリンピックが開幕した。メダルが期待されていた女子モーグルの上村選手は残念ながら4位に終わったが、男子スピードスケート500mで長島選手と加藤選手が銀・銅メダルを獲得するなど幸先のいいスタートを切った。今後のメダルラッシュに期待したい。

その一方で、今回のオリンピックで競技よりも注目されているものがある。スノーボード・ハーフパイプ男子代表の国母和宏選手の服装問題である。日本を出発してバンクーバー入りする際、日本選手団の公式ブレザー姿でシャツを外に出し、ネクタイをゆるめていたのがだらしがないとされたことである。この騒動は世代で賛否が分かれると思う。だぶだぶのウェアを腰よりずり下げて着こなすハーフパイプの選手たちにとって、シャツをズボンに入れるセンスは絶え難いものかもしれない。しかし、同時に、日本代表として注目を浴びる選手としての自覚ある行動も求められる。アメリカメディアでさえ、「垂れたズボン、外に出したシャツに、緩めたネクタイ…その辺にいるだらしのない21歳」と表現した。また、時にルールを守り、周りに合わせる必要があることを指摘するとともに、スーツが国民の税金で用意されたことにも触れた。

たかが服装がこれだけの大きな騒動に発展した今回の出来事は、まさに「したくてもしてはならないこと。やりたくなくてもやらなければならないこと」を改めて考えさせられた。これから、卒業式に向けて、そして1年の締めくくりを迎えるにあたり、制服の着こなしはもちろん、髪型、まゆ毛なども含めた服装をもう一度見つめ直してみよう。「だらしのない21歳」ではなく、「さわやかな13~15歳」であってほしい。

2月6日、「浦島デー」の前日、肋骨を骨折してしまいました。入院しなければならないと聞かされたとき、一番つらかったのは、人権集会フィナーレの『あなたに』の歌声が聞けないということでした。集会を成功させようとがんばっている生徒たちの姿を見て、少しでも役に立てればと、南先生のピアノ伴奏に併せてギターを弾こうと練習しました。前日には新しい弦に張り替えましたが、その弦を奏することはできませんでした。

2月14日、何とか退院することができましたが、普通の生活に戻るにはまだまだ時間がかかります。ゆっくりなら動けますが、ちょっと力を入れると脇腹に痛みが走ります。しかし、いつまでも寝ているわけにはいけないので、少しずつ慣らしていくために、学校にも顔を出しています。お騒がせして申し訳ございません。引き続き、多くの人にご迷惑とご心配をおかけすることになりますが、よろしく願います。 A教頭から